

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	スポーツ課長	小川 充則
健福-55	実施事業	体育施設整備事業	■ 自治事務 □ 法定受託事務	主管課 スポーツ課 関連課
総合計画上の位置付け	分野	スポーツ・レクリエーション	施策の方針	市民スポーツ・レクリエーションの推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	多様なニーズに対応できる施設整備を進め、スポーツを身近なものにしておくため。
効果	スポーツ施設の整備を行う。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体、関係機関等との協議を進め、スポーツ施設整備の推進を図った。 ・スポーツ施設を建設するための基金を運用した。 ・寄附金を基金に積み立てた。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	82,444世帯	世帯数	
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		
	決算値(千円)	4,242	3,699	当初予算(千円)	0
	国県支出金			国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他	4,242	3,699	その他	
	一般財源	0	0	一般財源	0
事業経費運営	人員配置数	2.0	1.5	人員配置数	0.0
	人件費(千円)	16,099	12,158	人件費(千円)	0
	総事業費(千円)	20,341	15,857	総事業費(千円)	0
	市民1人当りの経費(円)	115	90	市民1人当りの経費(円)	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない	
	関連・類似事業との統合はできないか	1. 統合できる	
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある	
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある	
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である	
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	2. 事業の方向性は適切であるが、手法は見直す必要があり、あまり貢献できていない	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない	
		△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない	
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△. 協働未実施	
		協働実施済の場合のパートナー	
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input checked="" type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容 体育施設管理運営 事業へ統合
	予算規模の方向性 <input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 引き続き、ふるさと寄附金等によるスポーツ施設建設基金の積立を行うため	
総評(評価に対する考え方、根拠等)	体育施設整備事業の主たる目的の総合体育館等の整備については、鎌倉市公共施設再編計画との整合性を図りながら進めていく必要があるが、市民スポーツ・レクリエーションが行えるような施設でなくてはならず、利用状況や予想を十分考慮しなければならない。このため、既存公共施設の活用や民間のノウハウを研究するために、体育施設管理運営事業と統合し、幅広い視野で本市のスポーツ施設の建設運営に適した手法を検討する必要がある。		

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 総合体育館、グラウンド建設に向けては、基本方針、基本計画の素案について、スポーツ推進審議会に諮問し、パブリックコメントを経て答申を得た後、行政計画とする。 山崎浄化センター西側建物上部の利用は、下水道事業の進捗を注視しながら、都市整備部所管の下水道運営協議会に説明し、地元住民からの様々な意見を集約したうえで市民が望む施設を作る必要がある。 	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> 総合体育館、グラウンド建設に向け「(仮称)鎌倉市総合体育館及びグラウンド施設整備検討委員会」を深沢地域整備課を交えて開催し、委員に深沢地域のまちづくりを説明し、総合体育館、グラウンドの計画内容やその時期について理解を得た。 山崎浄化センター西側建物上部の利用は、下水道運営協議会において近隣住民の要望等に基づき、テニスコート等のスポーツ利用はされないことが決定された。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> 総合体育館、グラウンド建設に向けては、基本方針、基本計画の素案について、スポーツ推進審議会に諮問し、パブリックコメントを経て答申を得た後、行政計画とする。 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、民間企業のグラウンドの借用が行えなくなっていることから、企業や学校法人等が所有するグラウンドの新たな借用に向けて、情報収集に努め、協議を行っていく必要がある。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	スポーツ建設基金寄附積立金実施状況									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

比較事項	総合体育館の設置数									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市	大和市	
他市実績	0	2	1	1	1	1	1	1	1	

比較事項	全天候型テニスコートの整備数(上段)、市全体のテニスコート整備数(下段)									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	0	19	16	14	25	36	4	3	13	
	10	19	20	24	33	36	4	3	15	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	スポーツ施設建設基金への積み立ては、本市のスポーツ振興を図るためのスポーツ施設整備に必要であることから、今後も着実に取り組んでいく。 総合体育館やテニスコート等、スポーツ施設の整備を目指していく。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	スポーツ建設基金寄附積立金						単位	円	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
スポーツ施設整備に必要なため	目標値	100,000	100,000	1,754,000	1,754,000	4,100,000	4,800,000				
	実績値	3,051	269,236	1,736,690	2,010,035	4,225,868	3,699,000				
	達成率	3.1%	269.2%	99.0%	114.6%	103.1%	77.0%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	平成28年度からのふるさと寄附金制度の活用等により、毎年積立額が増えていたが、令和元年度は減少に転じた。ふるさと寄附金全体の歳入は令和元年度も引き続き増額していることから、スポーツ施設建設基金のPRを強化し、増額を目指す必要があると考える。
-----------------------	--